

岐阜県の

プラスチック

岐阜県プラスチック工業組合会報

第44号

プラスチック産業展具体化へ

来年9月23日に産業会館で

技能検定、10月16日合格者発表

活路開拓事業、第2回委員会を開催

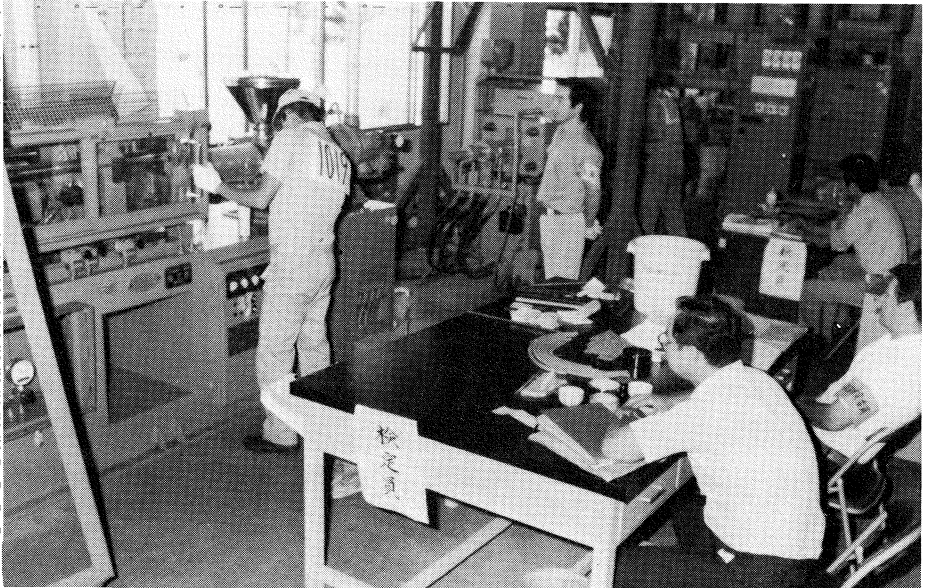
全国業界ニューズ

デザインのすすめ

組合員の工場訪問(大永工業)

事務局がより

岐阜県工業技術センターで実施された技能検定試験



来年9月産業会館で開く

『プラスチック産業展』具体化へ

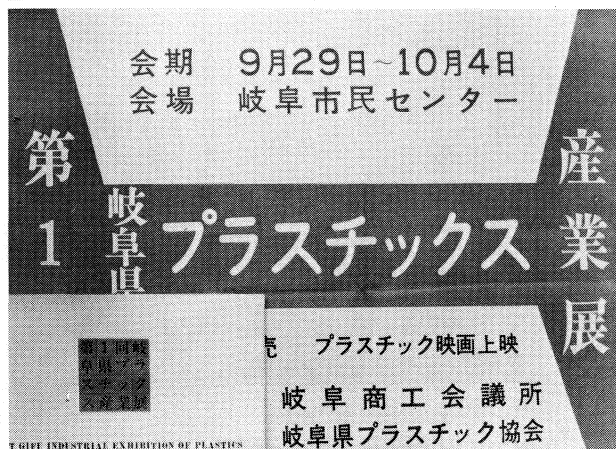
内外の関係者に協力呼びかける

岐阜県プラスチック工業組合は、さる5月総会で工組創立いらいの懸案であった『岐阜県プラスチック産業展』の開催方針を決めたが、いよいよ9月28日に第1回準備委員会を開き、具体的な開催準備に入る。すでに8月に開いた理事会では『来年9月28日から4日間、岐阜産業会館の大展示場で盛大に開く』とする産業展開催計画の骨子をまとめ、こんご組合員はもとより、県内外のプラスチック関係者に参加、協力を呼びかけていくことにした。

協会時代から数え 15年ぶりに実現

岐阜県プラスチック産業展は、工業組合が創立されていなかったプラスチック協会時代、昭和37年から42年までの毎年秋に開催、第6回まで回を重ねた。第7回は工業組合になってから昭和46年9月に開催計画したが、開催の直前に発生したドルショックで経済情勢が混乱、中止した。それいらい通貨不安、石油ショック、原材料高騰、経済不況など業界を取り巻く悪環境から産業展開催計画が立たず、幻の第7回プラ展となっていた。

したがってこのほど開催計画を立てた57年9月のプラ展は、幻となっていた『第7回岐阜県プラスチック産業展』を15年ぶりに実現することになったともいえる。とくに岐阜県のプラスチック業界が、全国に



上は第1回産業展の会場テーマ、下はそのポスター

先きがけて協会を設立、団体活動を開始して20周年を迎えたこともあって、東京と大阪で隔年に関くジャンプラスや毎年関くプラスチック日用品フェアに準ずる全国レベルのプラスチック産業展へ持って行く計画である。このため近く、三菱化成工業はじめ全国にあるプラスチックレジメーカー、機械メーカー、商社に対して出品協力依頼書を送った。

この第7回プラ展は、単なる見本市でなく、岐阜県下のプラスチック産地の規模と技術水準

を紹介するとともに、全国のプラスチック関係メーカー、商社と中部の関係業者に交流の場を設けるものでもある。現在、当工組では56年度の活路開拓調査事業を実施、年度内には岐阜県内プラスチック業界の実態把握と業界ビジョンをまとめるが、こんどのプラ展は同事業に折り込まれ、活路開拓のキメ手になるであろう。また、プラ展開催を機会に県内産地への新機種導入や近代化が進み、業界の一大飛躍へ大きな足がかりになるものと期待されている。

第7回県プラ展 開幕まであと一年間 準備委スタート



8月理事会で開催計画がまとまった『第7回岐阜県プラスチック産業展』は、岐阜県プラスチック協会創立20周年の記念行事として行う。会期も昭和57年9月23日か

武藤準備委員長ら26日までの4日間とし、会場は、岐阜産業会館の大展示場、2,180平方メートルを予定している。開幕までちょうど1年の準備期間があるわけだが、工業組合では大成功に終わることを期し、9月28日に第1回準備委員会（委員長＝武藤昭三副理事長）を開催、具体的な準備に着手する。

計画する第7回プラ展の特色は、かつてプラスチック協会時代に開催した第1回から第6回までのプラ展とは異なり①省エネ省力化機械展②岐阜県プラスチック加工業者の成形加工品展示③シンポジウムの三つの分野を総合的に開くことである。いいかえれば、全国のプラスチックレジ、機械のメーカー、商社による省エネ省力化の新鋭機器や新材料を展示、県内業界の高度化、近代化を推進、業界の振興を促す。一方、展示会と同時に開催する県内成形加工

品展は、当工組会員の成形加工品を展示、県内産地企業の技術水準の紹介と製品販路の開拓を行う。さらにシンポジウムは『技術集約型産業への展望－これからのプラスチック産業と岐阜県』をテーマに開く。この討論では県内プラスチック産地のビジョンや研究発表をしてもらい、これからのプラスチック産業のあり方を探ることになっている。工組では展示会を機会に会員増強をはかり組織を強化する。

なお、第7回岐阜県プラスチック産業展の開催要項は次のとおり。

＜主催＞ 岐阜県プラスチック工業組合。
岐阜県プラスチック協会。

＜後援＞ 名古屋通商産業局、岐阜県、岐阜市、大垣市、各務原市、関市（申請中）

＜今期＞ 昭和57年9月23日～26日まで4日。午前9時から午後5時。入場料無料。

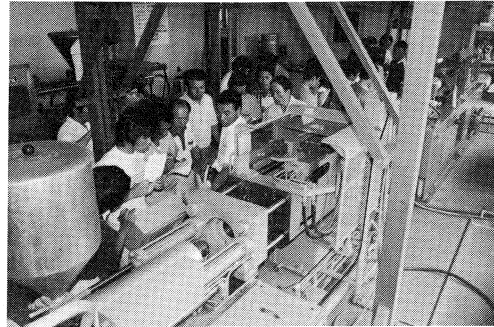
＜シンポジウム＞ 会期中の23日、24日の2日間、産業会館文化ホールで開催する。

＜展示方法＞ 実演展示コマを設け、各メーカー・商社ごとに展示する。組合員の全員参加によるブロック別出品の企業紹介や自社製品のPRコーナーを設ける。

合格率高い見通し
技能検定10月16日に発表

56年度の技能検定がさる8月2日に学科検定、同3日～7日までの5日間は実技検定のスケジュールで行われた。射出成形の検定受験者は1級技能士が実技で1人、2級技能士は実技が19人、学科が17人。学科は岐阜市学園町の岐阜県人材開発センターで、実技は羽島郡笠松町にある岐阜県工業技術センターで行われ、受験者はいずれも日頃の力を発揮した。

その後8月11日には技能検定総合採点審査会が開かれ、10月16日には、1、2級技能士とも合格発表が行われるが、検定委員の話では、昨年度より学科、実技とも好成績で、合格率はかなり高い見通しといわれる。



また、技能水準の向上をはかるため7月28、29の2日間、岐阜県工業技術センターで技能短期講習会（写真上）が開かれた。これは職業訓練の助成事業として開いたもので、開会にあたって大松理事長は『プラスチック加工業がこの成熟化社会の中で生き抜くには技術水準の向上以外にキメ手はない』とあいさつ。このあと2日間にわたって、射出成形機の取り扱いや加工技術についてみっちり講習を受けた。

『見直そう身近に良い品 県産品』
高山市で開いた県産品展示会に工組も出品

岐阜県は地場産業の振興を図るため8月を『県産品認識運動月間』とし、8月28日から3日間、高山市内の飛騨体育館で『見直そう身近

に良い品県産品』をテーマに県産品展示会を開催した。会場には工業組合もニコマ出品、プラスチック業界の意欲を誇示した。



県産品展示会に出品したプラスチック成形品

会場にはプラスチックのほか、主要県産品である食料、繊維、紙、陶磁器、金属製品などぎっしり展示されていた。

この県産品展示会は『飛騨の木工まつり』と併催されたもので、会場は終日にぎわい、とくにプラスチックコーナーでは、新しい成形技術でつくられた日用雑貨品に関心が集まった。

活路開拓事業 第2回委員会を開催 本格的調査へ

『活路開拓調査指導事業』は、9月28日には第2回委員会を開くなど本格的な調査研究に入っていく。第2回委員会は牧廣工業技術院製品科学研究所基礎性能部長、井手勝也全日本プラスチック成形工業連合会専務理事ら専門家委員5人と、大松理事長ら工組側の推進委員、協力委員らが出



席して開くもので、このほど事務局で調査を終了した実態調査をもとに、県内企業の問題点をさぐる。同時に専門家委員のもとで、業界が進むべき方向を調査分析してもらう。

活路開拓調査事業はこうした専門家委員を中心とする調査、研究活動のほか『地域集団懇談会』『技術動向調査』『産地動向調査』など各種の調査や資料収集を総合的に進める。

とくに地域集団懇談会の内容は、9月24日

中津川市で開くのを皮切りに、県内プラスチック産地を10ブロックに分けて実施、地域の問題点や産地の方向について話し合う。

委員会は年度内に合計5回開催するが、この間に実施する各種調査や情報、意見をもとに問題点を提起、こんごの産地の方向付けを行う。さらに企業体質の改善、合理化の方策、販路の拡充等を盛り込んだビジョンを作成する。(写真は7月に開いた第1回委員会)



三菱射出成形機 MFシリーズ

350MF・450MF・550MF・650MF・850MF

三菱重工業株式会社

本社産業機械第一部 東京都千代田区丸の内2-5-1 ☎東京(03)212-3111

名古屋営業所 産業機械一課 名古屋市中村区名駅3-28-12(大名古屋ビル9階) ☎(052)562-2176



全国業界のニュース

◎塩ビ樹脂の不況カルテル延長◎

塩ビ樹脂メーカー20社は、公正取引委員会へ不況カルテルの延長を申請していたが、8月31日認可を受けた。

延長となった塩ビ樹脂業界の不況カルテルは生産制限を前回の月間平均9万トン(減産率43%)から7万5千トン(減産率51%)に強化するもので、9→10月の2カ月間実施することになった。

◎P O フィルムのカルテル延長◎

日本ポリオレフィンフィルム工業組合は、中小企業団体法に基づいてポリオレフィン(P O)フィルムの不況カルテル(生産制限)を通産省へ申請していたが、8月31日認可された。この不況カルテルは、需要期に当たるため生産制限を前回の44%(ポリエチ45%、ポリプロ35%)を36%(ポリプロは対象から外してポリエチのみ)へ緩和、9→11月の3カ月間実施する。カルテル延長はこんどで3回目。

◎トヨタがP Pバンパーを量産◎

トヨタ自動車工業は自動車軽量化のため材料転換に関連する大型設備投資を本格的に進める。このため田原工場にポリプロピレン(P P)バ

ンパー生産のため大型射出成形機を導入した。田原の化成品工場は、現在、ウレタンバンパー、コンソールボックスなどを生産しているが、6万7,200平方メートルの建屋しか使われていなかった。このため2千-3千トンクラスの大形射出成形機を10台導入、今夏からP Pバンパーの量産に入ったもの。

P Pバンパーはウレタンバンパーに比べて2-3万円コストダウンできるため大衆車に装着し、ウレタンは高級車へと2系列の生産を行っていく。

◎カナダで二塩化エチレン生産◎

米国ダウ・ケミカル、鐘淵化学工業、三井東圧化学の三社は、カナダのアルバータ州で塩化ビニール樹脂の中間原料であるE D C(二塩化エチレン)の共同生産をめざし、合弁会社を設立することにした。年内に新会社を設立、とりあえずダウのカナダ法人の既存設備によるE D C輸入を始め、1984年には共同生産のための新設備を建設する。

アルバータ州の石油化学コンビナート拡大を計画しているダウは、E D Cの安定需要家の確保を、また、日本側2社は中間原料の調達をねらうもの。わが国塩ビ業界が中間原料の海外調達時代に入ったことを象徴する動きである。



秋元産業株式会社

本社 東京都中央区八重洲5の7
名古屋営業所 名古屋市中村区米屋町2(埼玉ビル9F)
TEL <052> 582-5071

◎完全に燃焼、熱分解できる炉◎

道前築炉工業（高岡市石瀬 1929ノ10）は、処理が難しいとされていた廃プラスチック類や有機汚泥など高分子物質を高効率で完全に燃焼・熱分解できる産業廃棄物専用焼却炉を開発した。特色は高分子物質の多い固形廃棄物の粉碎など前処理せずに焼却でき、可燃性ガス、燃料油回収も可能という。構造上の最大の特徴は、産業廃棄物を投入すると傾斜した炉床上で燃焼しつつスラロームしながら焼却物が滑り落ち、従来の炉に比べ著しく燃焼効率が高い。

◎紹介された県下の成形加工業◎

岐阜県商工労働部はこのほど『岐阜県の商工業'81』を発売したが、その第2部岐阜県の産

業活動の中で、プラスチック成形加工業が紹介されている。

それによると岐阜県下のプラスチック成形加工業は岐阜、中濃、東濃を中心に県下各地に約600企業が点在し、発展している。これらの企業は第2次オイルショックの影響もあり、材料エネルギーコストが上昇し、経営が苦しい状況にある。しかし、基幹産業（自動車、家電）への需要は応用開発等により伸びていると説明している。

さらに問題点と今後の方向についてもふれている。県内の成形加工業の大半は中小企業で、その形態は基幹産業の下請である。下請企業の問題点としては①親企業との対応②下請企業の体質改善③品質管理の導入④製品開発⑤自動化省力化の推進⑥省資源、省エネルギーなどがあ

プラスチック成形加工業の現況

（単位：人、百万円）

区 分	事業所数		従業者数		製造品出荷額等	
	53年	54年	53年	54年	53年	54年
計	581	634	6,876	7,312	116,028	119,939
プラスチック板、管、棒、継ぎ手製造業	18	22	447	697	9,333	19,082
プラスチックフィルム、シート製造業	15	18	551	624	14,732	18,076
工業用プラスチック製品製造業	161	169	1,957	2,111	22,861	29,503
プラスチック発泡製品製造業	17	16	351	349	5,308	5,687
強化プラスチック製品製造業	30	34	389	433	4,495	4,739
その他のプラスチック製品製造業	340	375	3,181	3,098	59,299	42,852

げられる。これらを着実に実行し、独自の技術を確認することによって企業の安定を図る必要がある一として

左の表は業界の実態調査結果。



東芝機械株式会社

本社 東京都中央区銀座4丁目2-11

名古屋営業所 名古屋市中村区名駅4丁目7番23号

化工機課 TEL <052> 561-8341

デザインのすすめ
岐阜県プラスチックデザイン協会

デザイナーを有効に

このところ県下プラスチック加工業界からのデザインに関する相談も増え、デザイン開発への関心の高さがうかがえる。

その中に、『これまでも芸大卒、美大卒の人にデザインを依頼したこともある。現在も某デザイナーと年間契約をしている。が、商品化できるものは極めて少なく、売れるものはすべて経営者が考えている』という話が多くある。

そこで、デザイナーの能力を私なりに分析したので、今後のデザイナーの有効な使い方の参考にされたい。

現在、デザイナーといわれている人達も、実は様々な領域に及んでいるが、特に関係の深い工業デザイナーについていえば、芸大・美大を卒業した人達が多く、次で工業大、教育大、デザイン学校という順になるであろう。これらの人達が共通に学んでいるのは、美術・芸術を中心としたデッサン、彫刻、絵画、美術史、デザイン史、デザインテクニックであり、工業製品

意匠のための応用力として材料学、機構学、製図、生産工程等を少し学んでいるにすぎない。

よって、企業能力、マーケティングを無視した開発は、企業戦略、商業戦略としての売れるデザインという。企業のためのデザインというよりは、消費者のより美的、芸術的文化生活のためのデザインといった、文部省管轄的な域にある製品提案を行なうことになりやすく、市場には出ないことになる。この責任はデザイナーばかりでなく企業側にもある。

いま1つ通産省的モノの開発、つまり企業側に近づき、利潤追求を目的とする企業とより豊かな生活を目的とする消費者とデザイナーの能力である『広範囲な美的造形力』によってよりつながりやすくすることが必要である。そのために企業と顧問契約するデザイナーもふえており、企業力を十分に知ったうえで製品デザインを進める傾向にある。

デザイナーはモラル上、同業種、同製品のデザイン開発は同時に進められないため、様々な製品開発に恵まれ、頭に浮んだアイデアを視覚的に表現できる。また、常に新鮮さが要求されるため広範囲な時代情報を収集している。といった能力を有効に使い、『明日売る商品』のためにデザイナーと共に努力しなければならない。デザインは商品開発そのものである。

三菱化成のエンジニアリング プラスチックス

ナイロン樹脂 NOVAMID ノバミッド	ポリカーボネート樹脂 NOVAREX [®] ノバレックス	PBT樹脂 NOVADUR ノバドール
中低圧ポリエチレン NOVATEC	高圧ポリエチレン NOVATEC-L	

三菱化成工業株式会社
本社：東京都千代田区丸の内2-5-2・三菱ビル
電話 03(283)6111(大代表)〔〒100〕

デザインや塗装に独創性出す

大 永 工 業



組合員の工場訪問は、岐阜市黒野南1-83にある大永工業（従業員10人、北岡寛代表）を訪ねた。この会報では昭和52年の9・12豪雨で被災し、立ち直った企業とし

北岡 寛さん て紹介されたことがある。

『あれからもう4年になりますね』と水を向けると、北岡さんは『あの豪雨と災害で、軒下まで濁水に浸った工場内は惨たんたるものでした。しかも4日間も水につかり、その跡は水と油と泥の海、それに包装の破れたレジンが散乱し、これが長年、築き上げてきた工場かと思うと気が遠くなる思いでした』とふりかえる。

その成形工場へ一歩入ると、床は磨かれて整然とし、被災の跡はもうどこにも見られない。成形機は当時より1台増えて6台（3・5オンスから10オンスまで）となり、どれも自動運転、時折り作業員が見回っている。

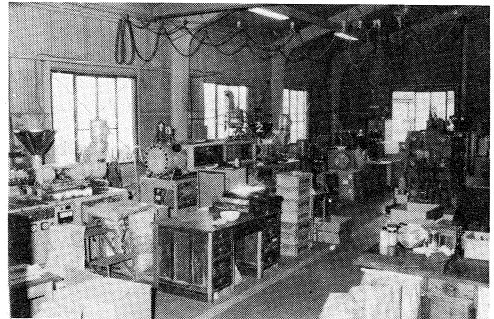
製品の9割は家具用の『取手』

北岡さんがプラスチックと取り組むようになったのは、若いころ青年団活動で大松さん（岐阜プラ社長）と知りあったからという。プラスチック業界の将来について話を聞かされ、昭和39年には、それまでの靴下製造をあきらめ、自宅の黒野古市場で成形品の旋盤加工を開始した。42年には成形機を購入し、成形加工を始めたが、最初は雑貨品の成形だった。

現在の射出成形工場を完成したのは47年。その規模は用地約2千平方メートルに工場は2棟。順次、成形機は増え、被災した52年までに5台となった。製品の9割は木工家具用の『取手』で、残りは『自動車部品や家庭用品』など。この取手はオリジナルな自社製品で、木目や年輪を描いた塗装技術に、独特のノウハウが秘められており、その付加価値は高い。

模倣品の出回りに新しい悩み

水害というアクシデントがあったものの、本格的な成形工場が完成してやがて10年、北岡



さんは『その間、努力してきたことは、付加価値の高い自社製品をつくること。とくに木工家具用の取手の生産は、製作にあたって家具屋さんの身になってつくってきました。しかし、東西の市場へ出すと数カ月後には模倣品が出回り、商品価値は半減してしまいます』と悩みを話す。いろいろ体験し『高い市場価格を常に保つにはデザインや塗装に独創性を盛ることです』ともいう。工組が今年開いた第1回製品開発スクールに参加したのは、北岡さんの業界に生き残れる結論とぴったり一致したからだと話している。

（写真は被災から4年になる成形工場）

事務局だより

会員と事務局を結ぶページ

□ 恒例の研修旅行にぜひ参加下さい □

恒例となっています会員研修旅行を11月5、6日(木、金曜日)の2日間にわたって実施する予定です。旅行先は福井市で、研修内容はFRPと真空成形の海道工業、押出成形のフクビ化学の工場見学と福井県繊維試験場の施設見学です。時間のゆとりがあれば福井県プラスチック工業組合関係者と懇談する予定です。

宿泊は北陸山中温泉を予定し、翌日は越前での海の幸を味わっていただいたり、親睦を深めたり、種々行事を企画しておりますので、日程をご都合していただいてぜひご参加下さい。詳細は近く郵送でご案内します。

□ 工組組合員の増強にご協力下さい □

さきの5月総会でも議題になりましたように組合員の増強が要請されています。工組としては、県の工業技術センターが県内7会場で開く地域集団指導や当工組が実施する活路開拓事業の中で実施する地域懇談会や講習会を通じてアウトサイダーへ組合加入を呼びかける方針ですご協力下さい。現在、当工組の会員は106会員ですが、近い将来(プラスチック産業展を開

く来年9月ごろまで)に300会員達成をめざしております。

□ 産業展開催の具体的準備が始ります □

今会報のトップ記事でお知らせしましたようにプラスチック産業展の開催計画が決まり、いよいよ具体的な開催準備に入っていきます。組合員全員の協力によって成功させ、岐阜県の七次産業の一翼を担いたいものです。

この10月9、10、11の3日間、群馬県で群馬県プラスチック見本市が開かれます。群馬のプラスチック業界に負けない産業展を実現しようではありませんか。

□ 新事務員の新井千鶴さんをよろしく □

約2年間、事務局で活躍していただいた矢野美和子さんがこのほど退職され、新しく新井千鶴さんが採用されました。組合へ電話された方はお気付きかも知れませんが、若くて、美しい女性です。よろしくお願ひします。

岐阜県のプラスチック 1981 44号

昭和56年7月1日発行

発行 岐阜市六条南2丁目11番1号
(岐阜産業会館4階)

電話(0582)72-7173

岐阜県プラスチック工業組合

発行責任者 大松 幸 栄

出光

の石油化学製品

◎取扱品目 中低圧ポリエチレン
ポリスチレン ポリプロピレン
高圧ポリエチレン カルプ®
ポリカーボネート



出光石油化学株式会社

東京都千代田区丸の内3-1-1(国際ビル) 〒100 ☎ 03-213-3111
名古屋営業所 名古屋市中区錦1-17-13(名興ビル) 〒460 ☎ 052-231-8611

三菱油化株式会社

取締役社長 吉田正樹

本社 〒100 東京都千代田区丸の内2丁目5番2号(三菱ビル)
TEL (03) 283-5689(代)
名古屋支店 〒450 名古屋市中村区名駅3-28-12(大名古屋ビル5階)
TEL (052) 563-5641(代)

ポリエチレン
スミカセン®

エチレン酢酸ビニル共重合樹脂
エバテート®

ポリプロピレン
住友ノーブレン®

ポリスチレン樹脂
エスブライト

塩化ビニル樹脂
スミリット®

メタアクリルシート
スミペックス®

メタアクリル樹脂
スミペックス-B®

高密度ポリエチレン
スミカセンハード

熱可塑性エラストマー
住友®TPE

合成ゴムSBR
住友®SBR

合成ゴムEPR
エスプレン®
エチレン酢酸ビニル
塩化ビニル共重合樹脂
スミグラフト®



住友化学工業株式会社

名古屋支店 〒460 名古屋市中区錦1丁目11番18号(興銀ビル)
電話 <052> 201-7571

徳山ポリプロ

徳山OPフィルム

ポリプロピレン二軸延伸フィルム



徳山曹達株式会社

名古屋営業所 名古屋市中村区名駅四丁目27番23号(新名古屋ビル東館5階)
電話 (052) 581-1581(代)



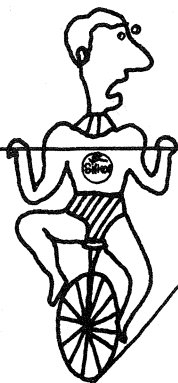
ニーズに**適確に**
こたえることで
未来の扉をひらきます

産業や生活のあらゆる分野で、便利さや快適さを生みだしているプラスチック。このすぐれた特性をコントロールして、繁栄のためによりよく活用しなければなりません。信越ポリマーはプラスチックを主な素材として、各種の製品を多角的に開発、生産、販売しています。一方、これらの製造や流通のプロセスにあたっては、安全や環境の保全にも十分配慮し、時代と社会のニーズにこたえる新しい価値づくりを進めています。

新しい素材を価値あるものに

信越ポリマー

名古屋支店 名古屋市中村区名駅4丁目27番23号 (新名古屋ビル)



信越シリコーンなら

では、**離れ技**。

**信越シリコーン
離型剤**

プラスチックの離型に最適な離型剤をご紹介します。

信越シリコーン離型剤。熱に強く、化学的に不活性ですから、型や成形材料を汚したり、傷めたりする心配がありません。不良品の発生を防ぐばかりか、清掃などの労力が軽減できますので、作業能率も一段と向上します。

〈特長〉

- 少量の塗布ですぐれた離型性。
- 耐熱性、撥水性にすぐれています。
- 化学的に不活性ですので、型を侵しません。
- 複雑な型にも使えます。
- 品種が豊富です。



信越シリコーン

信越化学 / 名古屋支店
名古屋市中村区名駅4-27-23(新名古屋ビル東館)
TEL(052) 581-6511(代)

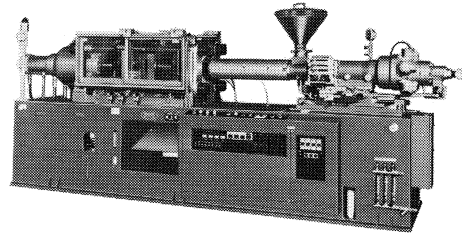


●80年代テーマ

時代を「射る」

高速精密汎用射出成形機 SEシリーズ

「高附加価値成形」と「省エネルギー」の両機能を兼ね備えた80年代の射出成形機です。省電力対応型の電子コントローラによって、射出・型締および油圧など各機構をデジタル制御。とりわけ油圧機構には新機軸の油圧回路SSEシステムにより、油圧の動力損失を最小限に抑えて、消費電力を大幅に減少させました。省電力効果は40～70%（製品により異なる）と極限を追求したものです。



NISSEI
日精樹脂工業株式会社

1歩進んだ射出成形機をおとどける

本社・工場・長野 県坂 埴 町 電話 (02688) 2-3000 (大代表)
営業所 東京 ☎(03) 357-7541 (代表) 大阪 ☎(06) 693-7881 (代表)
名古屋 ☎(052) 732-0261 (代表) 長野 ☎(02688) 2-3000 (代表)
出張所・全国27ヶ所・海外サービスステーション24ヶ所(21ヶ国)
岐阜出張所 岐阜市西部4962-1(茜ビル) ☎(0582) 72-5952



伊藤忠商事株式会社

名古屋支社 エネルギー化学用品部合成樹脂課

名古屋市中区錦一丁目5番11号
〒460-91 名古屋中郵便局私書箱10号
電話 (052) 203-2481~2488

染料 }
工業薬品 } 販売
合成樹脂 }

山田化成株式会社

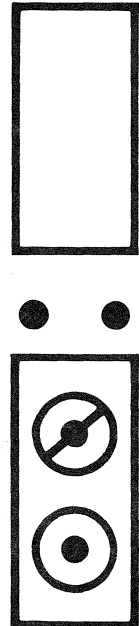
取締役社長 山田正水

本社 〒101 東京都千代田区内神田2丁目8番4号
TEL (03) 256-7861(代)
名古屋出張所 〒460 名古屋市中区丸の内3丁目13番18号(サワニビル)
TEL (052) 961-6591(代)

UL・94-V0 認定材料

自己消火性樹脂

JSR NF94
JSR NC100



日本合成ゴム株式会社 本社/東京都中央区築地2-11-24 TEL(03)541-4111・名古屋支店/TEL(052)571-1231

発見と発明

ゆたかな生活環境をクリエイト

MMA部門を中心として、時代のニーズに合った
発見と発明を…



“発見”されたモノを日常生活に使用できるように研究開発することが“発明”です。人類にとって新しく“発見”されたエネルギー“天然ガス”を原料に「高品質素材の総合開発」をテーマに、“発明”を続ける協和ガス化学工業。メタクリル一貫生産メーカーとして、常に“より良いもの”を求め続けています。

メタクリル樹脂・注型板

パラグラス®

メタクリル樹脂・押出板

コモグラス

メタクリル樹脂・成形材料

パラペット®



協和ガス化学工業株式会社

本社 〒103 東京都中央区日本橋3-8-2新日本橋ビル ☎(03)277-3174
大阪事務所 ☎(06)345-3901 名古屋営業所 ☎(052)951-6396
福岡営業所 ☎(092)711-1530 仙台営業所 ☎(022)66-1525



活きてる素材。

三菱レイヨンのプラスチック

メタクリル樹脂／板状品

アクリライト®

メタクリル樹脂／射出成形材料

アクリペット®

ABS樹脂

ダイヤペット® ABS



三菱レイヨン

東京(272)4321 / 大阪(202)2241 / 名古屋(561)6711



リスのプラスチック



今、新しい
テーブルウェアの
たび だち
出発。

ノーブル(英語)とは“高貴”という意味、その名にふさわしいテーブルウェアとして、リスの一貫したデザインポリシーから生まれたメタクリル樹脂の最高級品です。

RISU
Noble
ノーブル

岐阜プラスチック工業株式会社

本社 岐阜市神田町9丁目25(大岐阜ビル6F) TEL<0582>65-2233(代)
稲羽工場 岐阜県各務原市前渡東町3620 TEL<0583>86-9311(代)
支店 東京・大阪・名古屋・福岡 営業所 高松・広島・仙台・札幌・宇都宮